

eMAXIS 最適化バランス リバランスレポート

情報提供資料

2020年2月

eMAXIS 最適化バランス

(マイゴールキーパー/マイディフェンダー/マイミッドフィルダー/マイフoward/マイストライカー)

最適化バランス指数の資産クラス別比率が変更されました

▼リバランスとは何ですか？

リバランスとは、現在の資産クラス別比率を目標とする比率に調整することをいいます。eMAXIS 最適化バランスが連動することを目指す「最適化バランス指数」は、目標リスク水準に沿うように年1回資産クラス別比率を変更します。(各目標リスク水準に対してリターンが最大化されるよう資産クラス別比率を決定)。したがって、eMAXIS 最適化バランスにご投資いただいたお客さまは、自ら見直しをせずとも、目標リスク水準を目指した運用を手間なく継続していただくことが可能です。

▼調整後の資産クラス別比率はどうなりましたか？

最適化バランス指数の資産クラス別比率(2020年1月末現在)については、以下をご覧ください。



		最適化バランス(6%)指数 ＜マイゴールキーパー＞	最適化バランス(9%)指数 ＜マイディフェンダー＞	最適化バランス(12%)指数 ＜マイミッドフィルダー＞	最適化バランス(16%)指数 ＜マイフoward＞	最適化バランス(20%)指数 ＜マイストライカー＞	
リ バ ラ ン ス 後 の 比 率 (%)							
	比 率 の 増 減 (%)	国内株式	0	+ 1	0	+ 1	+ 1
		先進国株式	0	0	0	0	0
		新興国株式	0	0	0	0	0
		国内債券	0	- 1	0	- 1	0
		先進国債券	0	0	0	0	0
		新興国債券	0	0	0	0	0
		国内リート	0	0	0	0	0
		先進国リート	0	0	0	0	- 1

■ 国内株式 ■ 先進国株式 ■ 新興国株式 ■ 国内債券 ■ 先進国債券 ■ 新興国債券 ■ 国内リート ■ 先進国リート

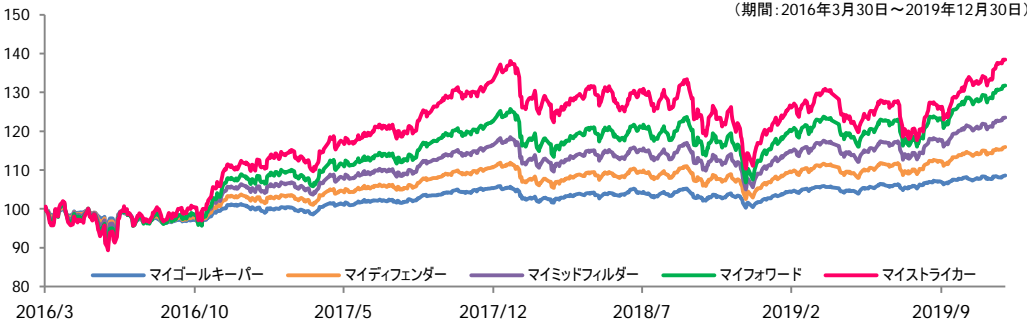
・<>内は各指数に連動をめざすファンド名です。

～最適化バランス指数を算出している、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンからのコメント～

2019年12月末基準で各資産クラスのデータを用いて推計リスク(標準偏差)や期待収益率などを算出したところ、国内株式および新興国株式の期待収益率は上昇した一方で、それ以外の資産クラスについては期待収益率は低下しました。また、各資産クラスの推計リスク(標準偏差)はやや低下しました。各指数の推計リスク(標準偏差)を目標水準に近づけ、最適化(目標リスク水準に対してリターンが最大化される)を行ったため、マイディフェンダーおよびマイフowardにおいては国内株式の配分比率を引き上げて、国内債券の配分比率を引き下げたほか、マイストライカーでは国内株式の配分比率を引き上げて、先進国リートの配分比率を引き下げました。

※上記は最適化バランス指数についての分析等であり、当ファンドの将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

[ご参考:各ファンドの基準価額(分配金再投資)の推移]



- ・左記グラフは、2016年3月30日(設定日)を100として指数化しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
- ・信託報酬率については、後記の「ファンド費用」に記載しています。
- ・左記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していません。
- ・計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

ファンドの目的・特色

＜ファンドの目的＞

日本を含む世界各国の株式、公社債および不動産投資信託証券市場の値動きに連動する投資成果をめざします。

＜ファンドの特色＞

- ①イボットソン・アソシエイツ・ジャパンが算出する最適化バランス指数に連動する投資成果をめざして運用を行います。
 - 各ファンドの1口当たりの純資産額の変動率を最適化バランス指数(以下「ベンチマーク」という場合があります。)の変動率に連動させることを目的とした運用を行います。
 - 最適化バランス指数は、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがeMAXISシリーズのファンドを参照して算出する指数であり、5つの目標リスク水準別指数の総称です。目標リスク水準別指数は、eMAXISシリーズにおける各ファンドの対象インデックスの長期間にわたるデータを用いて期待収益率、リスク(標準偏差)等をそれぞれ推計した上で最適化(目標リスク水準に対してリターンが最大化される)を行い決定される資産クラス別比率に応じて、eMAXISシリーズのファンドの基準価額(分配金再投資)の騰落率を乗じることで算出されます。そのため、ファンド名につきましても「最適化バランス」という名称を付与してあります。
- なお、各指数の資産クラス別比率の決定は、原則として年1回行います。
- ※目標リスク水準は、各ファンドおよび各ファンドが連動することをめざす指数の価格変動リスク(標準偏差)の目処を表示したものであり、各ファンドのポートフォリオを構築する際の目標値として使用します。このため、各ファンドの実際のリスク水準が目標リスク水準を上回る場合や下回る場合があります。
- ②主として各マザーファンドの対象インデックスに採用されている日本を含む世界各国の株式、公社債(マイゴールキーパーは、新興国株式、新興国債券を除く)および不動産投資信託証券に実質的な投資を行います。
 - ③原則として、為替ヘッジは行いません。
- [市場動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。]

投資リスク

■基準価額の変動要因

基準価額は、株式・リート市場の相場変動による組入株式・リートの価格変動、金利変動による組入公社債の価格変動、為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金とは異なります。主な変動要因とは、価格変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリー・リスクです。上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドの費用

購入時	購入時手数料	ありません
保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率0.55%(税抜 年率0.50%)以内 をかけた額 ※上場投資信託(リート)は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示していません。
	その他の費用・手数料	監査費用、有価証券等の売買委託手数料、保管費用、マザーファンドの換金に伴う信託財産留保額、信託事務にかかる諸費用等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。
換金時	信託財産留保額	<ul style="list-style-type: none"> ■マイゴールキーパー ありません。 ■マイディフェンダー/マイミッドフィルダー 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.05%をかけた額 ■マイフォワード/マイストライカー 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.10%をかけた額

＜課税関係＞
課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。つみたてNISA(非課税累積投資契約に係る少額投資非課税制度)、NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

【本資料に関してご留意いただきたい事項】

- 本資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社で運用を行います。

